

## 映画「多桑」 呉念真監督特別講演会のご案内

極寒の候、皆様におかれましては益々御健勝のこととお喜び申し上げます。

さて皆様は、10年前の台湾映画「多桑／父さん」を覚えていらっしゃるでしょうか。

戦前の日本教育を受けた主人公の「父さん」は、東京オリンピックのテレビ中継を熱心に見、台湾と日本の対戦試合では日本を応援する。調子が悪くなったラジオを叩き、「安物ばっかり買って……。日本製なら10年はもつのに」と愚痴を言う。そのような日本びいきの「父さん」の姿は、おそらく皆様の記憶に新しいのではないのでしょうか。

実はこの「父さん」こそ、この作品の監督、呉念真氏のご尊父がモデルなのです。

台湾の映画界、テレビ界で大活躍する呉念真監督は、台湾各地方の古き良き伝統を紹介する画期的なテレビ番組「台湾念真情」を3年にわたって製作しました。また連続テレビドラマ「台湾百合」を撮り、白色テロの嵐が吹きまくった戦後の長い年月における台湾知識人の不屈の気骨を描き、大変話題を呼びました。

その呉念真監督がこのたび、日本を愛し続けた「父さん」の記憶を胸に来日され、ご自身の日本観、あるいは真の台湾文化とは何であるかについて講演していただくことになりました。

つきましては皆様には、奮ってご参加いただけますようご案内申し上げます。参加希望の方は、下記の申込書に御記入のうえ、電話、FAX、またはEメールにてお申し込みください。

■日時 平成17年2月20日（日）午後5時～7時

■会場 ホテル センチュリーハイアット東京 B1F 天平の間

東京都新宿区西新宿 2-7-2

TEL : 03-3349-0111

【交通】JR「新宿駅」西口より徒歩9分、東京メトロ丸ノ内線「西新宿駅」から徒歩4分、都営大江戸線「都庁前駅」から直接連絡

■演題 生きて行く台湾一人々の暮らしの観点から（日本統治時代～現在）

■講師 呉念真先生（映画監督） [使用言語] 日本語

1952年、台湾・台北県生まれ。私立輔仁大学夜間部会計学部卒業、1980年、中央電影公司製片企画部編審。1993年、映画「多桑」を監督製作、1995年、映画「太平天国」を監督製作。ヒューストン映画祭金賞、アジア太平洋映画祭最優秀編集賞2回受賞、金馬獎最優秀編集賞5回受賞、金馬獎最優秀作詩賞、聯合報小説獎、吳濁流文学獎、金曲獎最優秀作詩賞など多数受賞。「台湾念真情」、「台湾百年」、「強盜與天使」、「箱子」、また「台湾百合」、「阿祖的兒子」など多数のテレビドラマ、ドキュメンタリー映画を製作、複数のテレビ局の番組キャスターも務める。作家としては、『特別的一天』（遠流）、『台湾念真情』1・2（麦田）、『台湾頭家』（非凡）など著作多数。映画脚本家としては「恋恋風塵」、「悲情城市」、「戲夢人生」、「多桑」など約75部の作品がある。

■主催 日本台湾医師連合、日本李登輝友の会、在日台湾婦女会

■参加費 1,500円（但し、学生無料）

■懇親会 同ホテル B1F 飛鳥の間 午後7時～9時（会費 8,500円）

■申込 日本台湾医師連合（丘）

TEL : 048-881-7333 FAX : 048-881-7222

Eメール : tehaino@nifty.com

日本李登輝友の会（柚原、片木）

TEL : 03-5211-8838 FAX : 03-5211-8810

Eメール : ritouki-japan@jeans.ocn.ne.jp

在日台湾婦女会（張信恵）  
TEL & FAX : 0424-22-4604

■ 申込締切 2月16日（水）

---

呉念真監督特別講演会申込書

ご氏名： \_\_\_\_\_ 人数： \_\_\_\_\_ 名 TEL： \_\_\_\_\_ FAX： \_\_\_\_\_

講演会                      出席                      欠席

懇親会                      出席                      欠席                      (いずれかに○をつけて下さい)